

授業科目名	在宅療養看護学		担当教員	栗栖 千幸	科目ナンバリング NE413
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		

【授業概要】

医療機関から在宅に移行し、在宅療養をしている対象者と家族介護者を理解するために求められる基礎的能力の習得をはかる。

【授業目的・目標】

1. 医療機関から在宅への移行期における看護を表現できる。
2. 在宅療養者への訪問看護における看護計画を討議できる。
3. 在宅療養者への看護に求められる包括的アセスメントの項目を作成できる。
4. 対象者と家族へのインタビューに必要な知識と態度を習得する。
5. 対象者と家族の心理と生活に関する理解を深める。

【履修条件】

「在宅看護学Ⅰ」、「在宅看護学臨地実習」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 在宅療養者と家族の支援
- [02] 退院支援のプロセスと多職種連携
- [03] 【対談】在宅療養者及び家族を支える訪問看護師の思い
- [04] 訪問看護の実際 訪問事例から在宅療養の成立要件を振り返る
- [05] 在宅看護の展開 ペーパーペイシエント事例 情報の収集
- [06] 在宅看護の展開 ペーパーペイシエント事例 アセスメント
- [07] 在宅看護の展開 ペーパーペイシエント事例 計画
- [08] 在宅療養看護学のまとめ(発表)

【教科書】

指定なし

【参考書】

指定なし。授業時に資料を配布し、参考文献を提示する。

【評価方法・評価基準】

課題レポート(40%)、小テスト(20%)、グループワーク、発表(40%)で評価する。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：在宅看護学Ⅰの復習 在宅看護学臨地実習訪問事例の看護の展開を思い起こす。

事後学習：在宅療養看護学実習に活用する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

在宅療養実習で活用できるよう、試験問題や解答および課題レポートは返却します。

【備考】

- ・3年次の在宅看護学臨地実習を振りかえり、療養者および家族への援助と看護の役割を理解する。
- ・療養者と家族の生活を尊重し、QOLの向上をめざす看護活動を理解する。